

産倍増2	政治 4	国際 6
耕す 7	経済 7	気流 8
文体 9	書評	9 10 11
も盗難31	家庭 17 19	教育 15
30	スポーツ	21 22 23
	小説 8	基・将棋 22

発行所 読売新聞東京本社 〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1 電話(03)3242-1111 (代) www.yomiuri.co.jp

「10万円介護ロボ」普及へ

◆政府が介護ロボットの普及に乗り出す4分野



政府は、安価な新型の介護ロボット普及に乗り出す。要介護者が歩くのを支えたり、高齢者を抱える介護職員の負担を軽くしたりするなど、機能を絞った10万円程度のロボット開発を促す。さらに、介護保険の対象を広げ、これらのロボットを月数百円でレンタルできるようにする。政府は、普及策を6月にまとめる成長戦略の柱と位置づけ、介護職員不足の緩和や新産業の育成につなげる方針だ。

〈関連記事7面〉

具体的には、介護職員が腰に着けて、少ない力で高齢者などを抱きかかえられる「パワーアシスト」型のロボットだ。政府は今年度から、これらのロボットを開発する企業などに開発・研究費の半額、3分の2程度の補助金を出す。

機能絞り開発 ■ レンタル月数百円

機器や、寝室や居間で排せつ物を自動処理するトイレなどが想定されている。認知症の人の居場所を把握できるセンサーなども対象になりそうだ。

現在は、一部のメーカーが高齢者を抱きかかえる人型の介護ロボットを開発しているが、1台2000万円と高額で普及していない。政府は、重点的な補助制度や量産効果によって、2016年度にも10万円程度の介護ロボットが登場すると想定している。

実用化されたロボットは、介護保険の適用対象とし、在宅の要介護者が1割負担で業者からレンタルできるようにする。10万円のロボットであれば、要介護者が支払うのは数百円とみられ、急速な普及が期待できるといふ。

経済産業省は、介護ロボットの市場が35年に4000億円に達すると試算して和する考えだ。



よみほつと日曜版に
ウィークリークイズ



観光客らでにぎわう南三陸さん商店街(27日午前、宮城県南三陸町) 飯島啓太撮影

GW 被災地を応援に

大型連休初日の27日、宮城県内の東日本大震災被災地は、復興を応援しようという観光客でにぎわった。地元観光関係者は「震災の記憶の風化を防ぐためにも、この連休中、多くの人が来てほしい」と期待している。

午前11時半頃、南三陸町の仮設商店街「南三陸さんさん商店街」近くに、仙台発のJRのバス「びゅうばす復興応援号」が到着。乗客約40人が降り立ち、商店街で海産物の買い物や食事などを楽しんだ。夫婦で訪れた、東京都渋谷区の会社員中西浩さん(55)は「被災地を応援したいと思ってツアーに参加した。復興にはほど遠いと感じた。またここに来て、街の変化を見守りたい」と話していた。

「完全閉鎖」時間の問題

鎖となれば、韓国政府と入居企業123社などに及ぶ被害総額は、最大で6兆(約5290億円)に上るとの銀行関係者の試算を報じている。韓国政府は入居企業への特別融資などの支援策を発表している。

◆完全閉鎖は時間の問題

シベリアに抑留された次男が死んだ。へも劣るさまでもて死にゆけるなり

新聞もスマホも。読売プレミアム

